

強者の戦略

こんにちは、日本史の岡上です。

「東大日本史のみかた」の2回目となりました。前回に引き続き 2009 年の東大日本史の第2問を取り上げてお話をしていきたいと思います。今回の問題は東大の日本史で過去何度かテーマとなっている中世から近世にかけての問題ですね。さあ、1週間、しっかり問題を考えてみてください。

【2009年度 東京大学 文科前期 第2問】

豊臣秀吉が戦乱の世をしずめ、全国統一を実現したことにかかわる次の(1)～(4)の文章を読んで、下記の設問A～Cに答えなさい。解答は、解答用紙(ロ)の欄に、設問ごとに改行し、設問の記号を付して記入しなさい。

- (1) 1585年、秀吉は九州地方の大名島津氏に、次のような趣旨の文書を送った。「勅命に基づいて書き送る。九州でいまだに戦乱が続いているのは良くないことである。国や郡の境目争いについては、双方の言い分を聴取して、追って決定する。まず敵も味方も戦いをやめよというのが叡慮である。もしこれに応じなければ、直ちに成敗するであろう。」
- (2) 1586年、島津氏は「関白殿から戦いをやめるように言われたが、境を接する大友氏から攻撃を受けているので、それなりの防戦をせざるを得ない」と回答した。
- (3) 1587年、島津氏は秀吉の攻撃を受けたが、まもなく降伏した。一方、中国地方の大名毛利氏は、早くから秀吉に協力した。秀吉は島津氏に薩摩国・大隅国などを、毛利氏に安芸国・備後国・石見国などを、それぞれ領地として与えた。
- (4) 1592年に始まる朝鮮出兵では、島津氏も毛利氏も、与えられた領地に応じた軍勢を出すように命じられた。

設問

A 秀吉は、戦乱の原因をどのようにとらえ、その解決のためにどのような方針でのぞんだか。3行以内で述べなさい。

[設問B・Cは略]

(1行=30字)